人口動態統計等から見る胆江圏域の状況

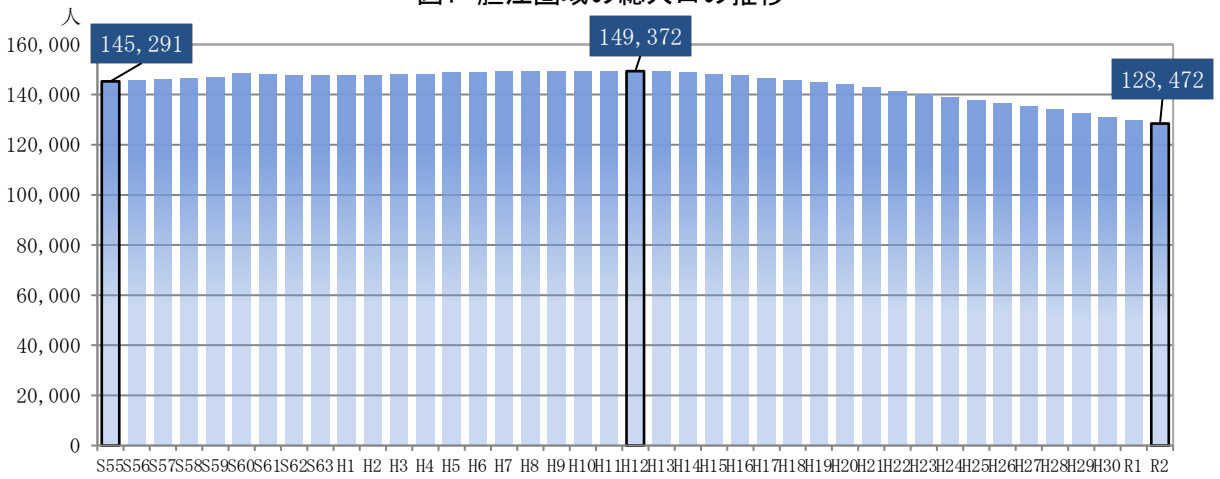
※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

Ⅰ　人口の推移

１　総人口の推移

胆江圏域の人口は、昭和55年（145,291人）から平成12年（149,372人）まで増加していましたが翌年から減少に転じ、令和２年には128,472人と、平成12年と比較し20,900人減少しています（図1）。

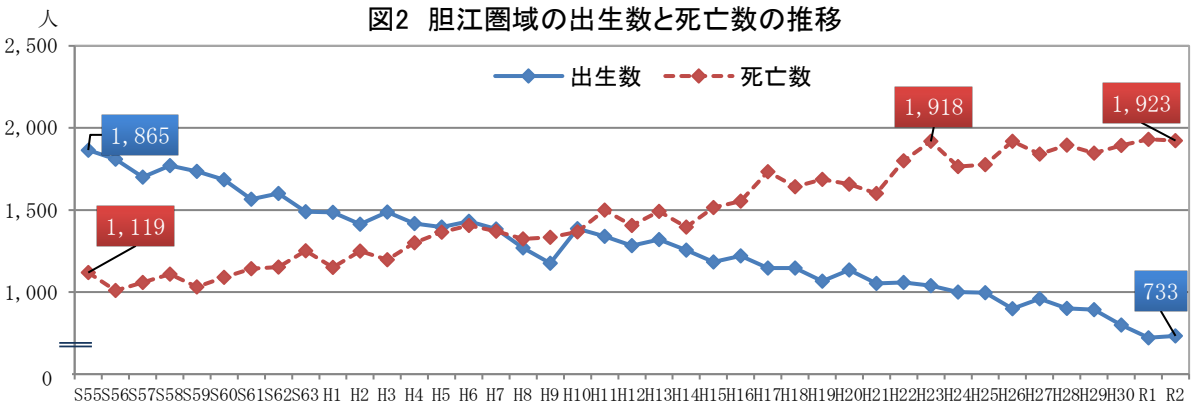
図1　胆江圏域の総人口の推移



２　人口構成の推移

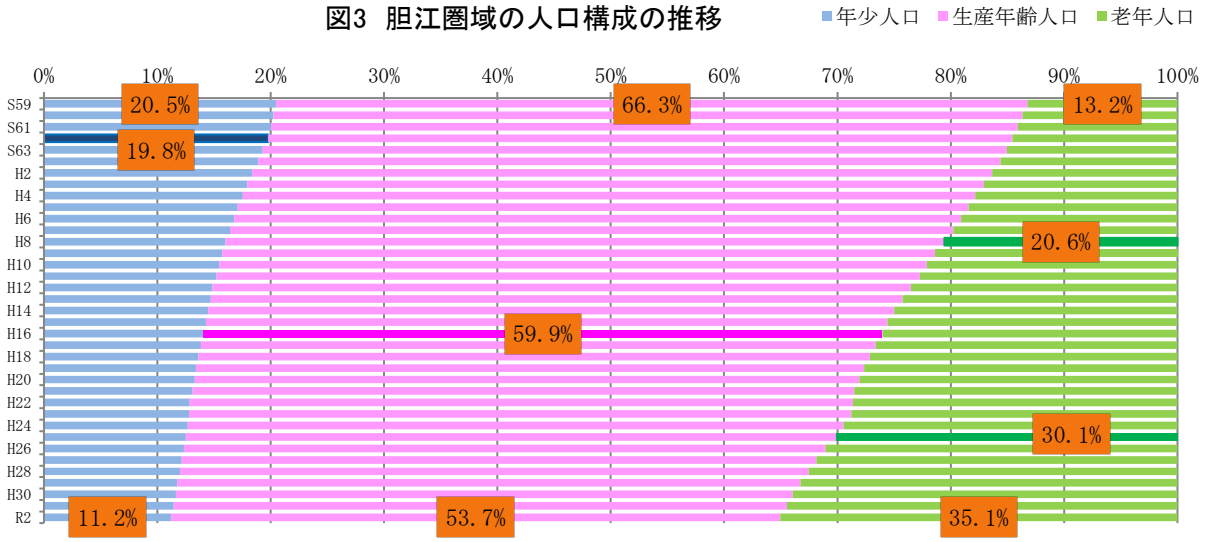
胆江圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には1,865人でしたが令和２年は733人と1,132人減少しました。
一方、死亡数は、昭和55年の1,119人から増加傾向にあり、平成23年、26年に1,918人と昭和55年以降最も多くなり、令和２年は1,923人でした（図2）。
出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成8年に初めてマイナスに転じ、平成10年に再びプラスとなりましたが、翌年以降はマイナスで推移し、その差は年々開いています。令和２年の自然増加数は1,190人減でした。

図2　胆江圏域の出生数と死亡数の推移



胆江圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。
年少人口は昭和62年に19.8%となり、令和２年は11.2%まで低下しています。
老年人口は平成8年に20.6%、平成25年に30.1%となり、令和２年は35.1%とおよそ3人に1人以上が65歳以上という状況です。

図3　胆江圏域の人口構成の推移



３　世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

胆江圏域の世帯数は、昭和55年の37,330世帯から令和２年には48,294世帯と、約40年で10,964世帯増加しています（図4）。
総人口を世帯数で割った世帯あたりの世帯員数は、昭和59年の3.75人から令和２年は2.66人と減少していますが、岩手県全体の世帯人員を上回って推移しています（図5）。
なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査の数値、それ以外は住民基本台帳の数値となっています。

図4　胆江圏域の世帯数の推移

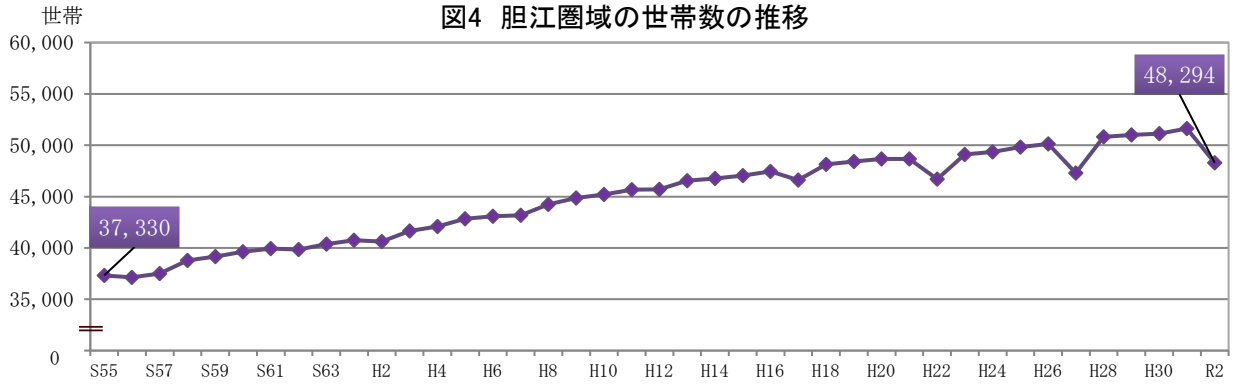
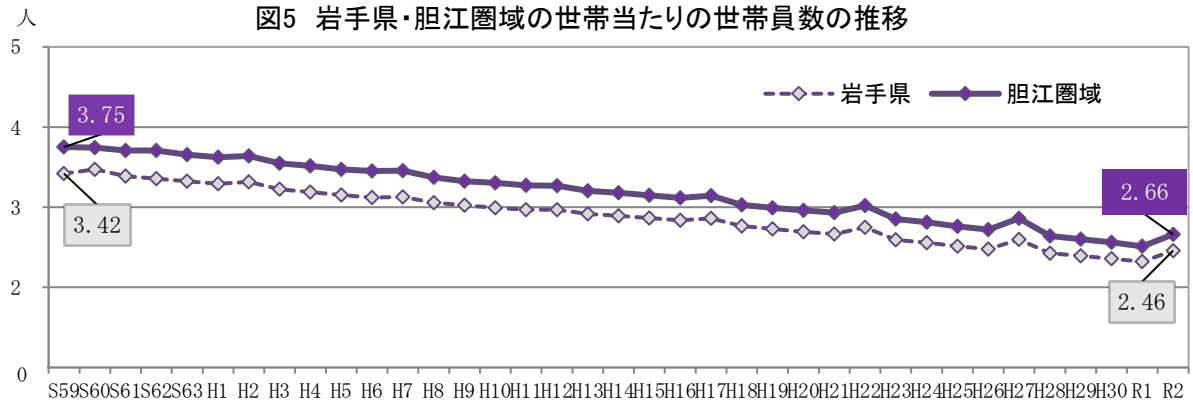


図5　岩手県・胆江圏域の世帯当たりの世帯員数の推移



Ⅱ　婚姻及び離婚の推移

１　婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、胆江圏域の婚姻数は、昭和55年から平成13年の827組をピークに、以降は減少傾向となっています。令和２年は394組でした（図6）。

人口千人当たりの婚姻率について岩手県全体と比較すると、昭和55年からは岩手県全体より低く推移していましたが、平成10年以降は岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移しています（図7）。

図6　胆江圏域の婚姻数の推移

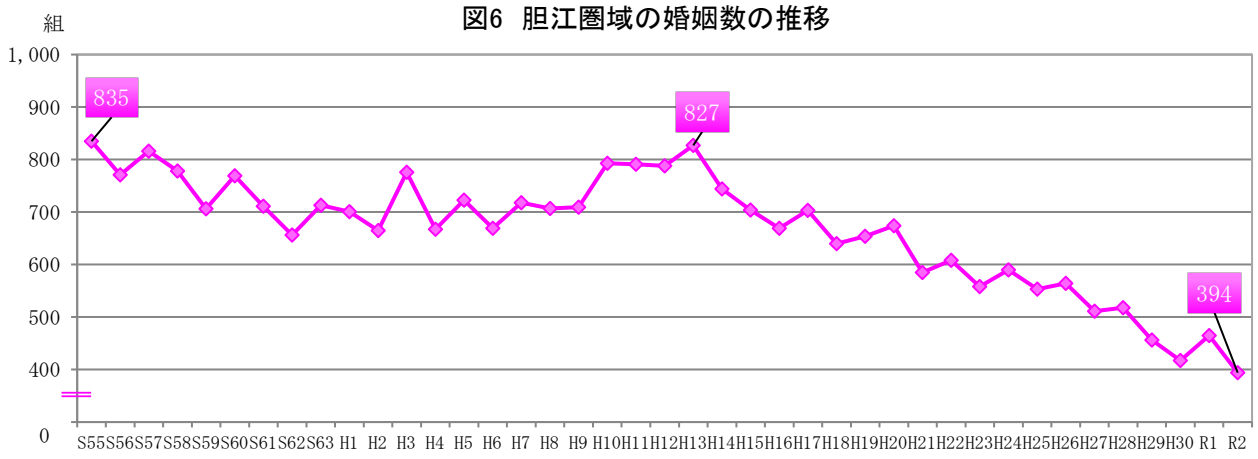
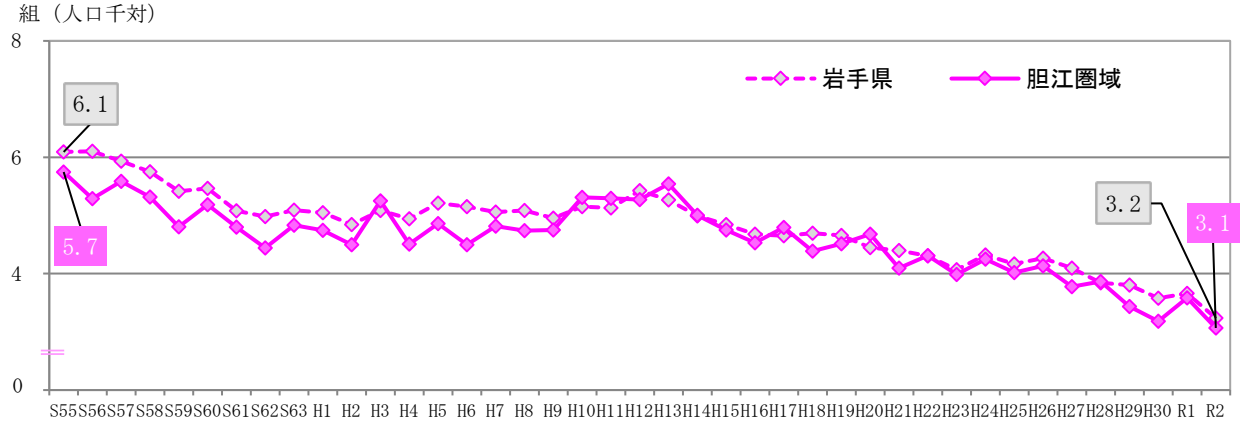


図7　岩手県・胆江圏域の婚姻率の推移



２　婚姻率の圏域別順位（令和２年高率順）

	岩手県	1位	2位	3位		5位	6位		8位	9位
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

３　離婚数及び離婚率の推移

胆江圏域の離婚数は、昭和55年から平成13年にかけて増加し、その後減少傾向となっています。平成21年には再び増加しましたが、翌年から減少に転じ、令和2年は207組でした（図8）。

人口千人当たりの離婚率は、岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移していますが、令和2年は岩手県全体より高く推移しています（図9）。

図8　胆江圏域の離婚数の推移

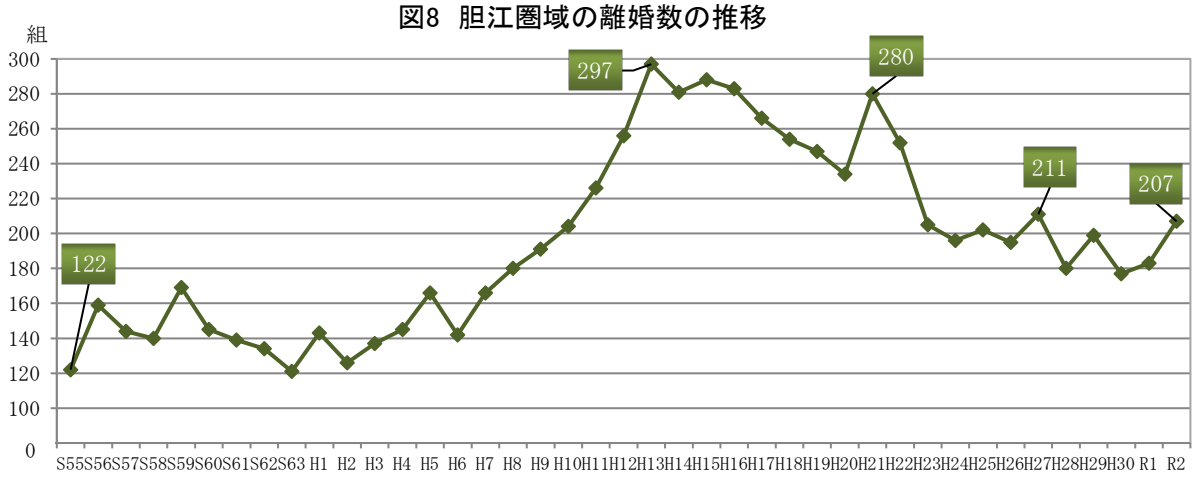
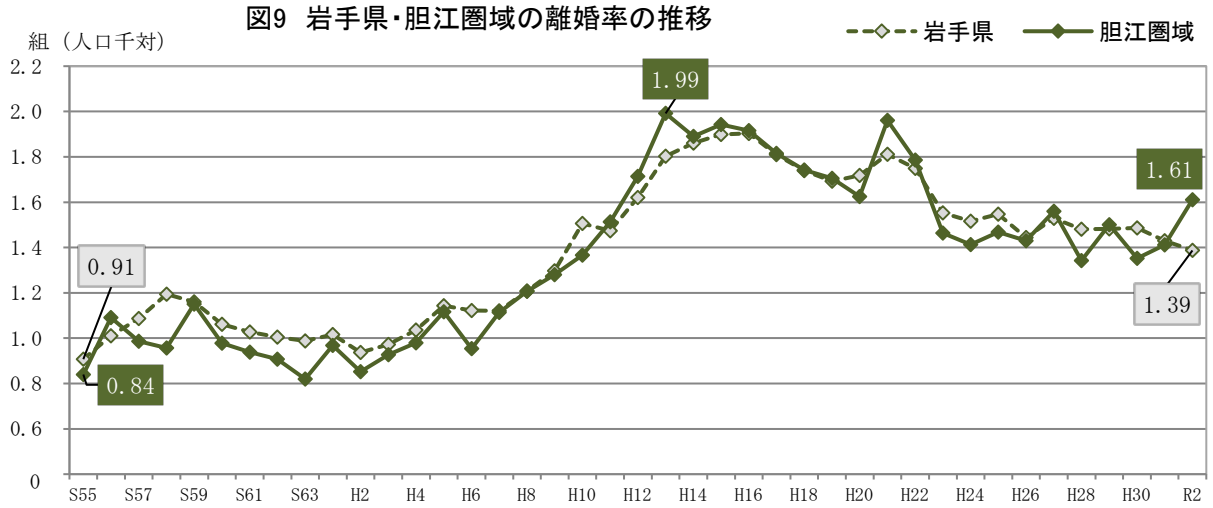


図9　岩手県・胆江圏域の離婚率の推移



４　離婚率の圏域別順位（令和２年低率順）

	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

Ⅲ　出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

１　出生数及び出生率の推移

胆江圏域の出生数は、昭和55年に1,865人でしたが令和２年には733人と1,132人減少しています（図10）。
人口千人当たりの出生率も、昭和55年の12.8から令和２年は5.7と低下しており、岩手県全体とほぼ同じ傾向で推移しています（図11）。

図10　胆江圏域の出生数の推移

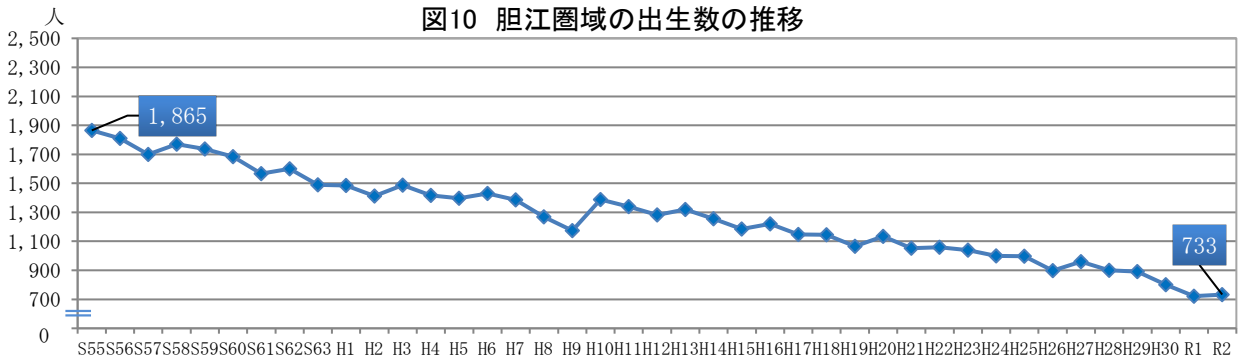
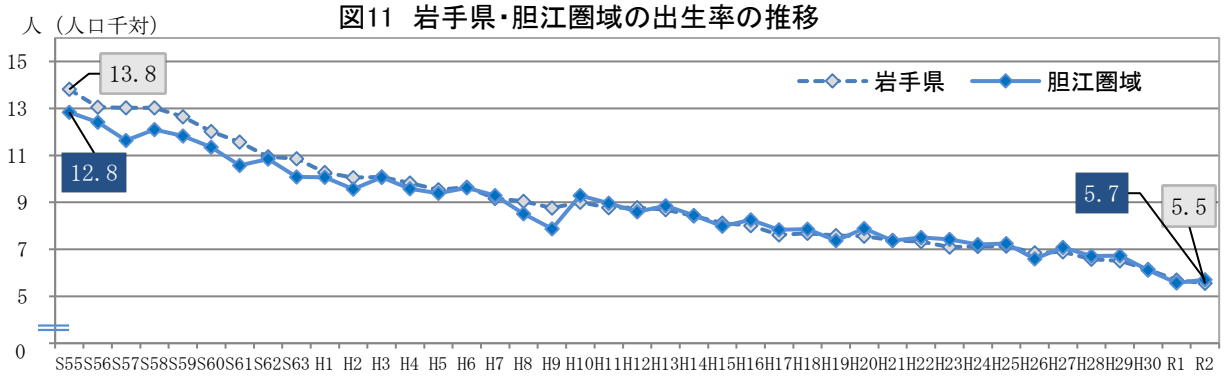


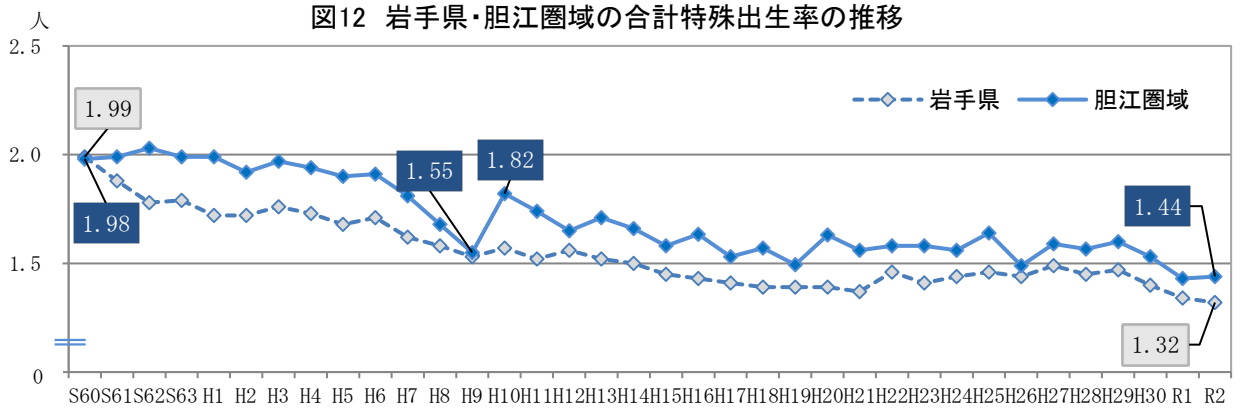
図11　岩手県・胆江圏域の出生率の推移



２　合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、胆江圏域は昭和60年の1.98から横ばいで推移し、平成6年から平成9年にかけて大きく低下しています。翌年に1.82まで上昇しますが、その後緩やかな低下傾向となって、令和２年は1.44でした。岩手県全体と比較すると、昭和61年以降岩手県全体より高い出生率で推移しています（図12）。

図12　岩手県・胆江圏域の合計特殊出生率の推移



３　合計特殊出生率の圏域別順位（令和２年高率順）

	岩手県	1位		3位	4位	5位	6位		8位	9位
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	二戸	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19	1.17

4　周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産（以下、「後期死産」と言います。）及び出生後満7日未満の死亡（以下、「早期新生児死亡」と言います。）を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率です。

胆江圏域の周産期死亡数は、昭和57年の16人から平成19年以降は5人前後で推移し、令和２年は1人でした（図13）。内訳は、後期死産が多くを占めています。

周産期死亡率は、昭和57年の9.3から大きく上昇と低下を繰り返しながら推移しており、令和２年は1.4と、岩手県全体より低い死亡率でした（図14、図15）。

図13　胆江圏域の周産期死亡数の推移

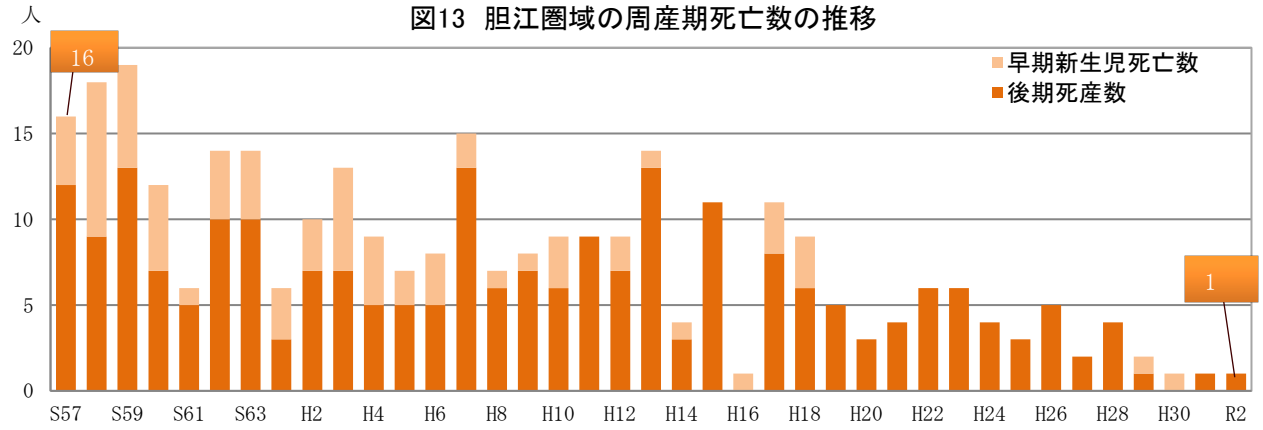


図14　胆江圏域の周産期死亡率の推移

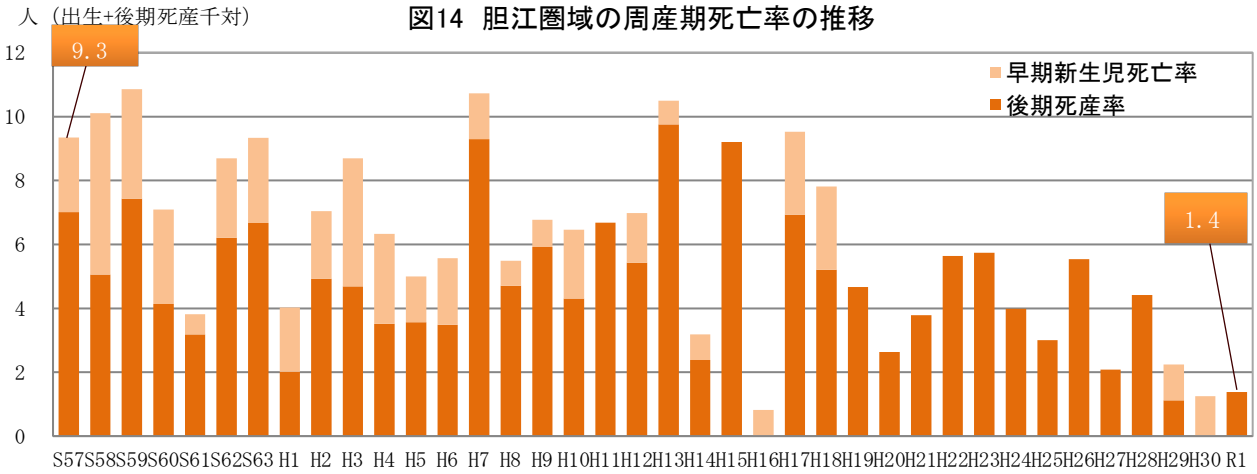
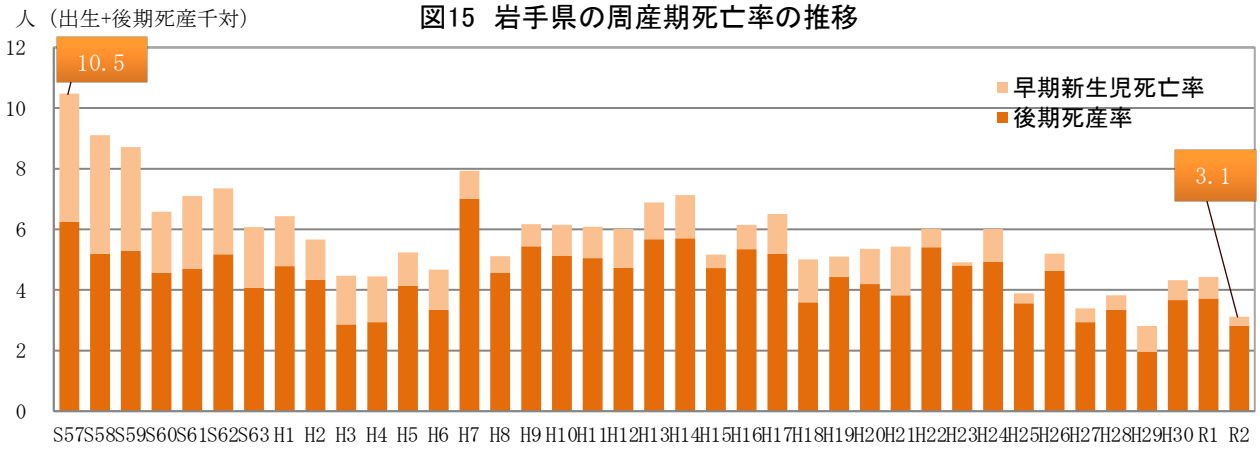


図15　岩手県の周産期死亡率の推移



５　死産数・率の推移

胆江圏域の死産数は、昭和55年の114人から減少傾向にあり、令和２年は18人でした。平成23年以降は25人前後で推移しています（図16）。

出産千人当たりの死産率は、昭和55年の57.6から低下傾向にあり、平成20年以降は25前後で推移しています。令和２年は24.0と岩手県全体より高く推移しています（図17、図18）。

図16　胆江圏域の死産数の推移

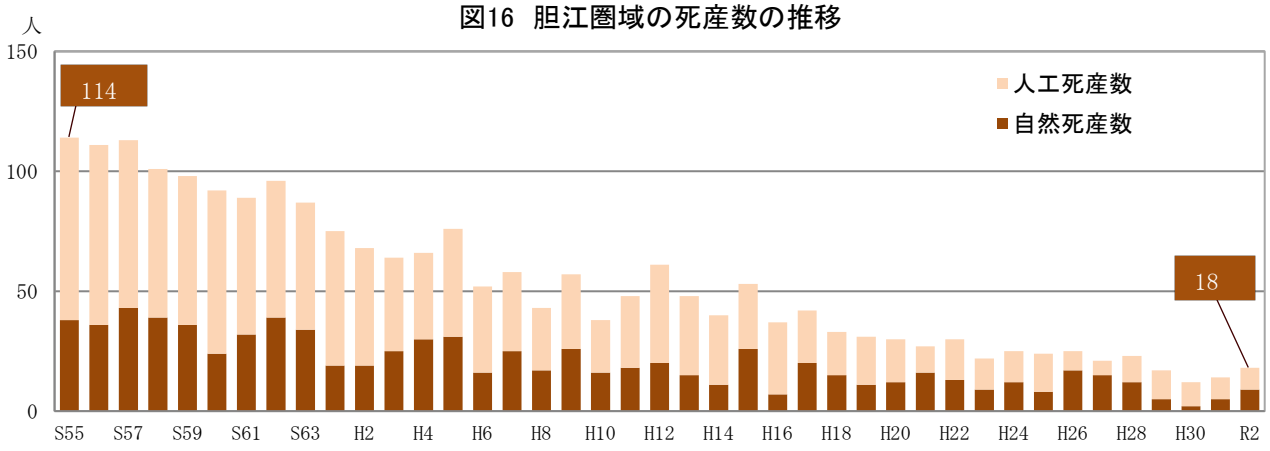


図17　胆江圏域の死産率の推移

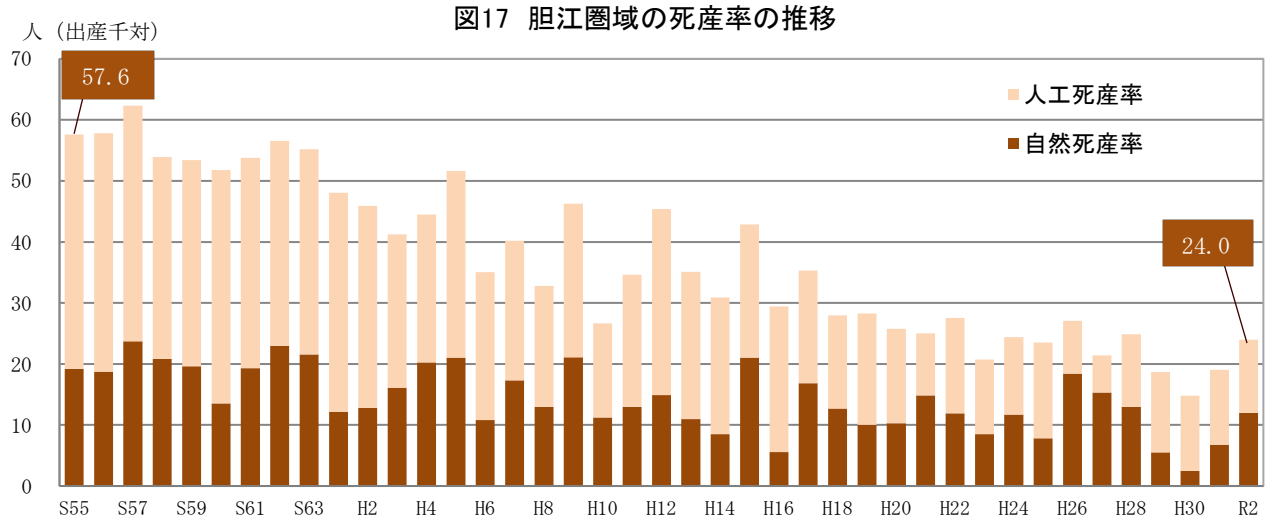
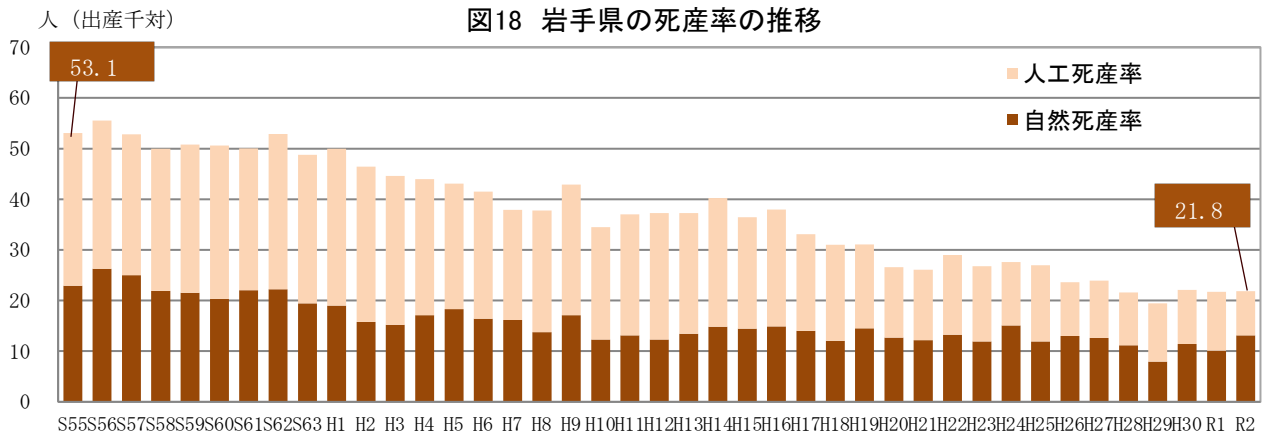


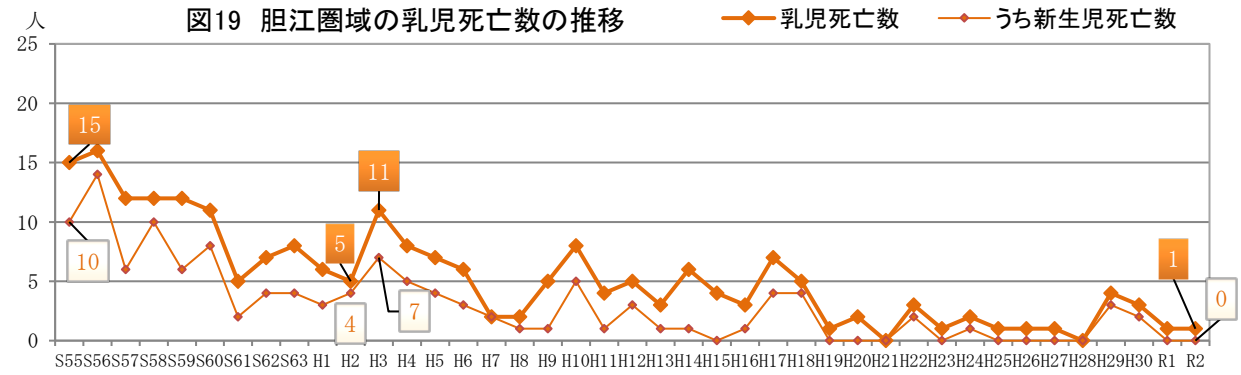
図18　岩手県の死産率の推移

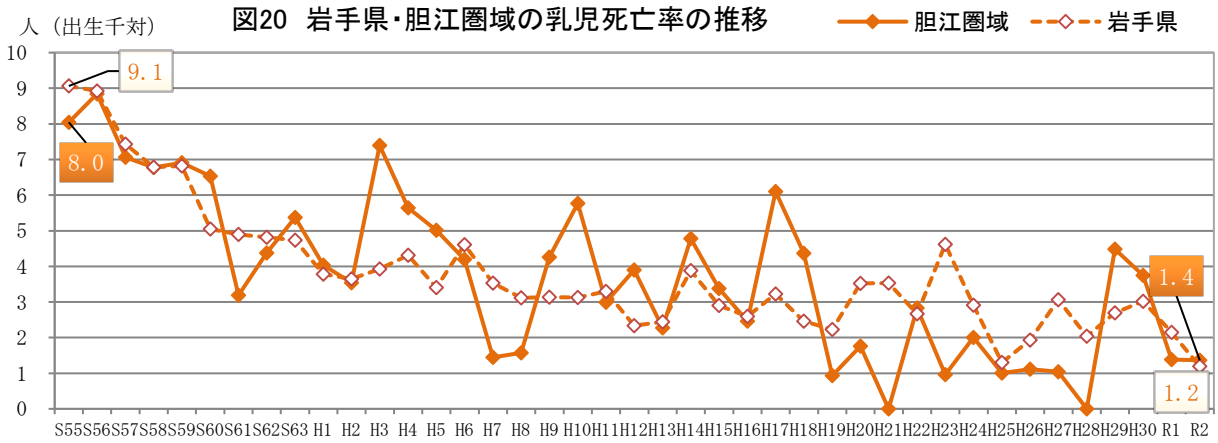


６　乳児死亡数・率の推移

胆江圏域の乳児死亡数は、昭和55年から平成2年まで増減を繰り返しながらも減少傾向にありましたが、平成3年に急激に上昇した後、低下傾向から横ばいで推移し、令和２年は1人となっています（図19）。

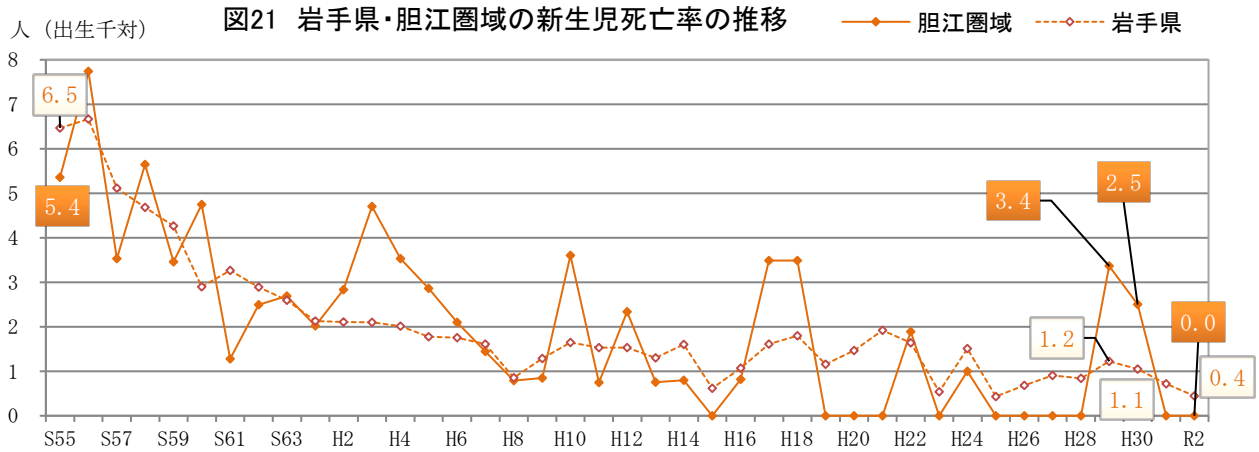
乳児死亡数のうち、生後4週間未満（新生児）の死亡は昭和55年で10人でしたが平成4年以降は5人以下で推移し、令和２年は0人でした。（図19）。出生千人当たりの乳児死亡率は岩手県全体より大きな幅で上昇と低下を繰り返し、平成19年以降は岩手県全体より低く推移していましたが、平成22年、平成29年、平成30年、令和２年は高く推移しています。令和２年は1.4でした（図20）。





７　新生児死亡率の推移

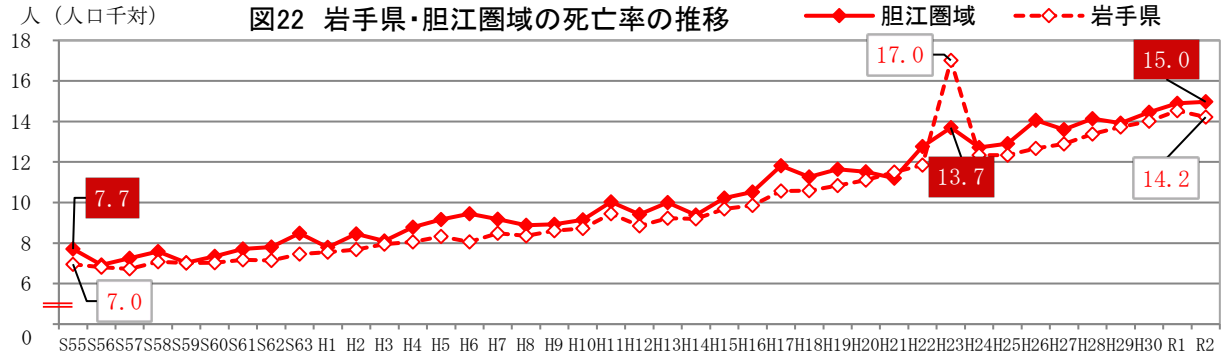
出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年の5.4から大きく上昇と低下を繰り返しながら低下傾向となり、平成25年以降は0が続いていましたが、平成29年、平成30年は高く推移しています（図21）。令和２年は0でした。



Ⅳ　死亡の推移

１　死亡率の推移

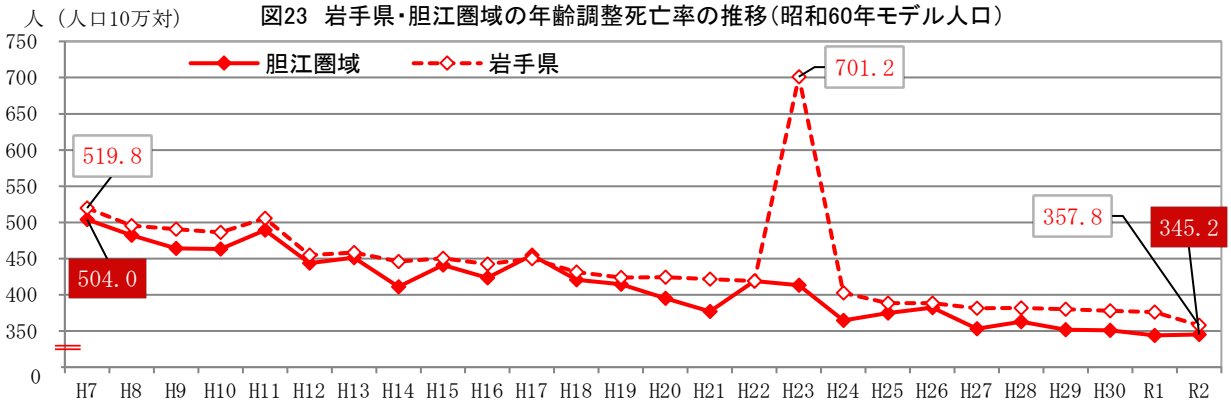
胆江圏域の死亡数が増加していることは前述のとおりですが（図2）、人口千人当たりの死亡率も、昭和55年の7.7から令和2年には15.0と上昇しました。岩手県全体と比較すると、胆江圏域は高く推移しています（図22）。
なお、岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。

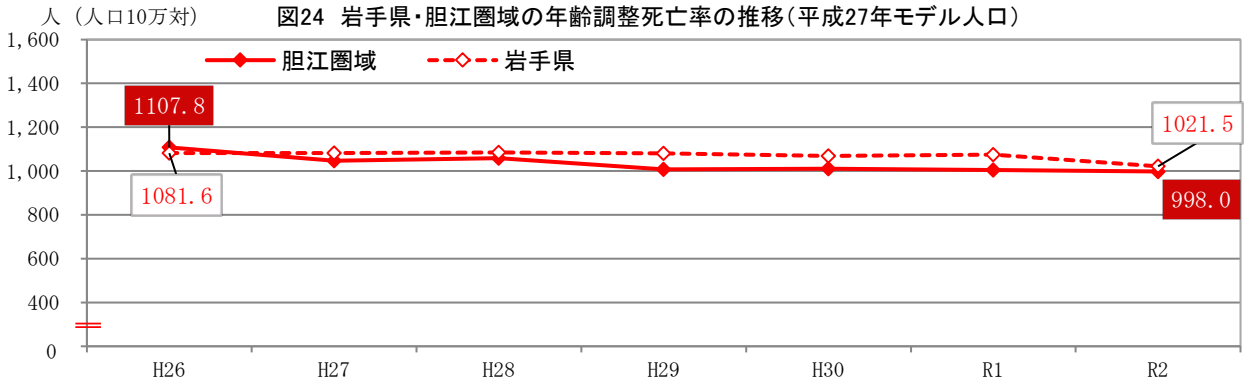


２　年齢調整死亡率の推移

（図23）の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※で見ると、胆江圏域は平成7年の504.0から徐々に低下傾向を示し、令和2年は345.2と低く推移しています。岩手県全体の平成23年死亡率が高いのは、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いためです。
なお、（図23）（図24）を見ると、ほとんどの年次で胆江圏域は岩手県全体より低く推移しています。

※年齢調整死亡率：年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率（人口10万人当たり）です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口（国勢調査人口を基に補正した人口）を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間（平成26年～令和5年）分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。
岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、胆江圏域は不詳人口を除いて算出しています。





３　男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で（図25）（図26）に示します。

（図25）を見ると、胆江圏域の男性は、平成７年の713.6から令和２年は475.7にまで低下しています。女性は、平成７年の356.3から令和２年は232.1にまで低下して推移していることがわかります。

なお、（図25）（図26）を見ると、胆江圏域は年ごとの変動はあるものの、岩手県全体より低い状況で推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。

図25　岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）

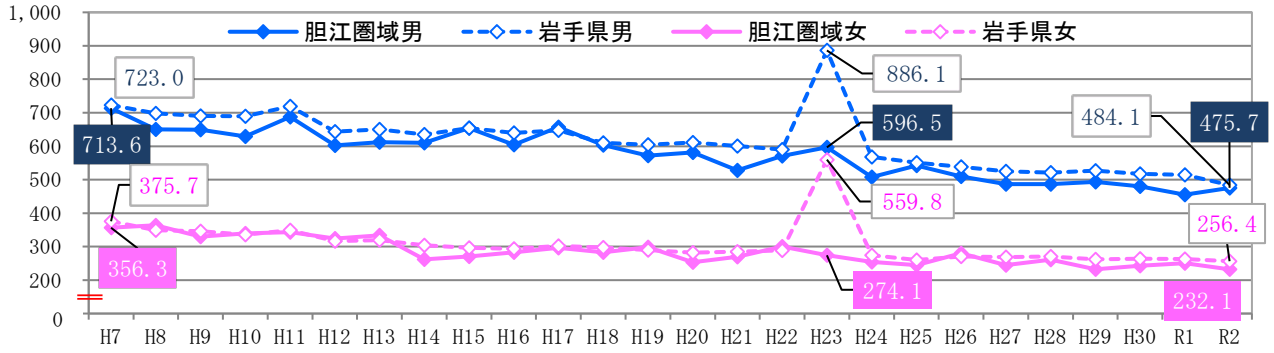
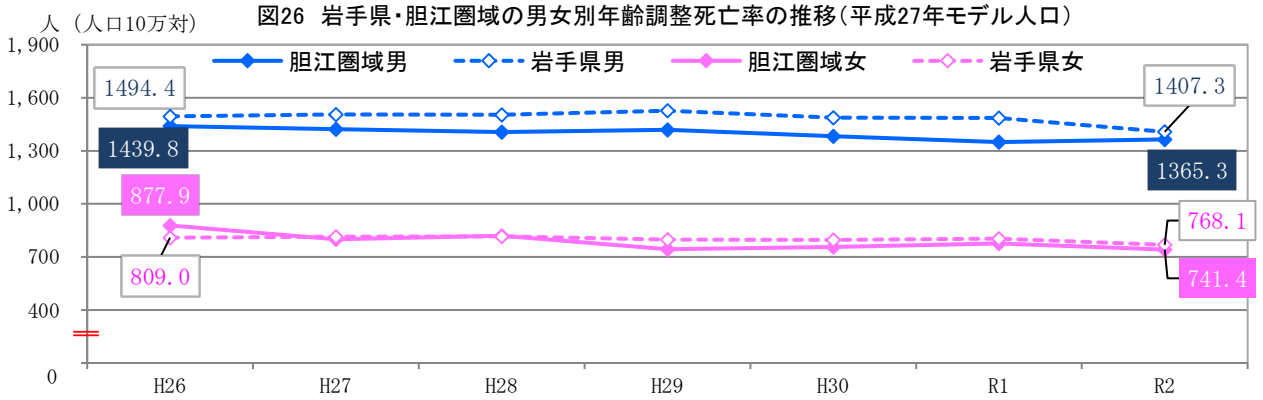


図26　岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）



４　年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・胆江圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分（昭和60年モデル人口）				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和２年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
			年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1
		胆江圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肺炎
			年齢調整死亡率	156.3	63.2	52.2	30.1	24.6
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺
			年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3
		胆江圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	不慮の事故
			年齢調整死亡率	76.1	34.3	27.8	20.3	8.8

区分（平成27年モデル人口）				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和２年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8
		胆江圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			年齢調整死亡率	414.7	198.4	158.3	99.6	94.9
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6
		胆江圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			年齢調整死亡率	191.6	112.8	99.8	91.7	37.7

＜参考＞令和2年死因別死亡数順位

岩手県・胆江圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と胆江圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっております。女性は第1位「悪性新生物」は同じ順位となっていますが、第2位は岩手県は「心疾患」で胆江圏域は「老衰」、第3位は岩手県は「老衰」で胆江圏域は「心疾患」、第4「脳血管疾患」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分				第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			死亡数	2,562	1,254	889	487	428
		胆江圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
			死亡数	293	137	109	68	58
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
			死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
		胆江圏域	死因	悪性新生物	老衰	心疾患	脳血管疾患	肺炎
			死亡数	208	169	154	124	58

5　悪性新生物の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図27）（図28）に示します。

（図27）を見ると、胆江圏域では、男性は平成7年から大きく増減しながらも緩やかな低下傾向にありますが、令和2年は156.3と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年以降緩やかな低下傾向にあり、概ね岩手県全体より低く推移しています。令和2年は76.1と岩手県全体より低く推移しています。

（図28）を見ると、胆江圏域は年ごとの変動はあるものの、男性はほとんどの年次で低く推移しています。女性は概ね岩手県全体と同様の傾向を示しています。

図27　悪性新生物の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）

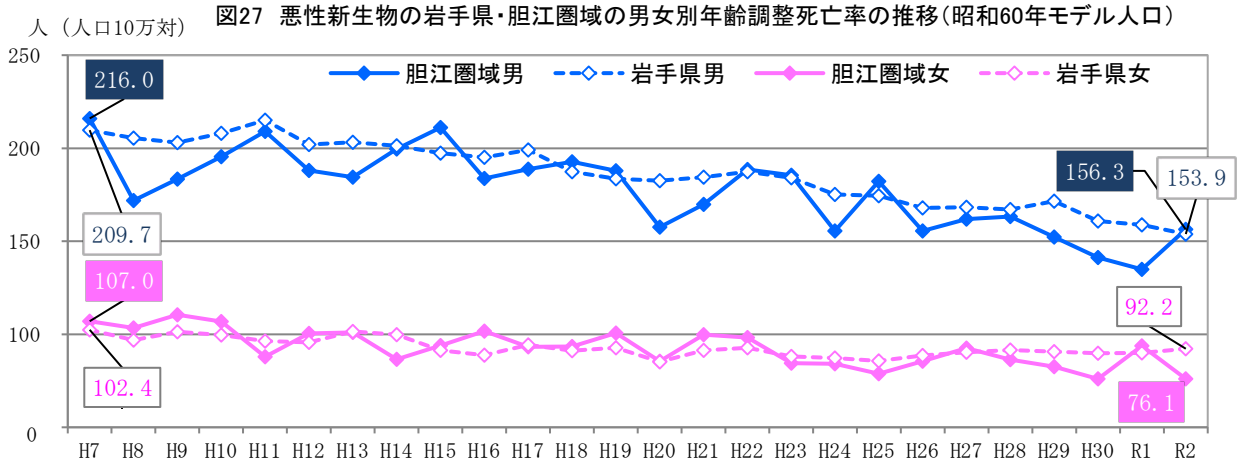


図28　悪性新生物の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）

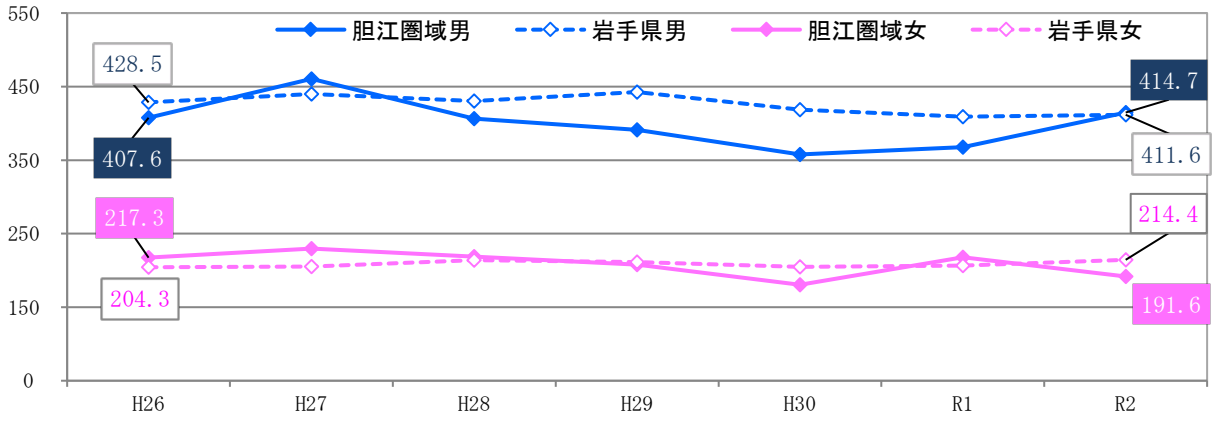


表1　悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・胆江圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

	区分（昭和60年モデル人口）			第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
			年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
		胆江圏域	死因	胃	肺	大腸
			年齢調整死亡率	31.9	31.5	28.6
	女性	岩手県	死因	大腸	乳	肺
			年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
		胆江圏域	死因	胃	乳	大腸
			年齢調整死亡率	15.1	10.7	9.5
	区分（平成27年モデル人口）			第1位	第2位	第3位
	男性	岩手県	死因	肺	大腸	胃
			年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
		胆江圏域	死因	肺	胃	大腸
			年齢調整死亡率	84.0	79.5	71.0
	女性	岩手県	死因	大腸	肺	乳
			年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
		胆江圏域	死因	大腸	胃	肺
			年齢調整死亡率	32.9	32.6	22.0

６　心疾患の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

(図29)を見ると、胆江圏域では、男女とも上昇と低下を繰り返しながらも低下傾向にあります。また、岩手県全体との比較では、平成19年以降は男性は低く推移していますが、女性は平成23年、26年は高く推移しています。令和2年の男性は63.2と岩手県全体より低く、女性は34.3と岩手県全体より高く推移しています。

(図30)を見ると、胆江圏域は年ごとの変動はあるものの、男女ともに概ね岩手県全体より低く推移しています。

図29　心疾患の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（昭和60年モデル人口）

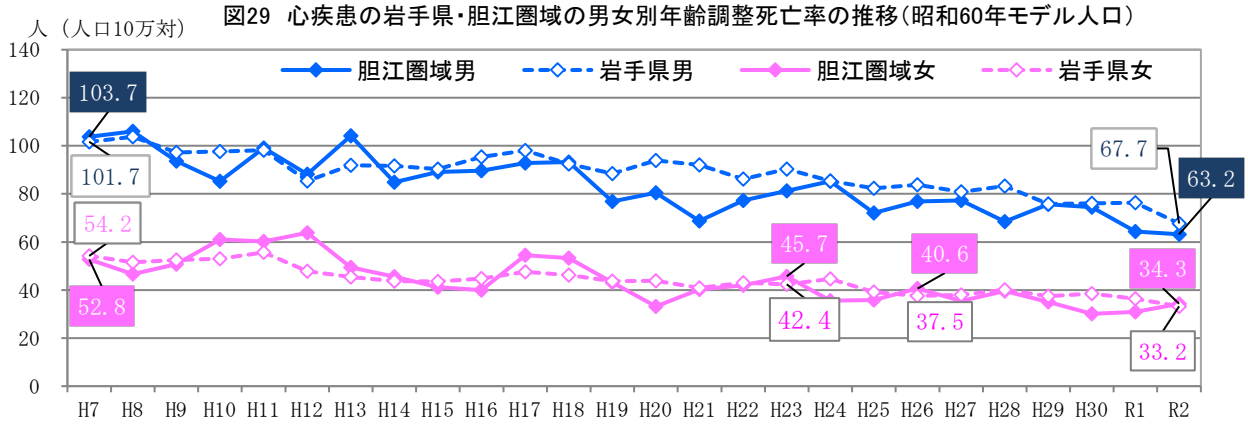
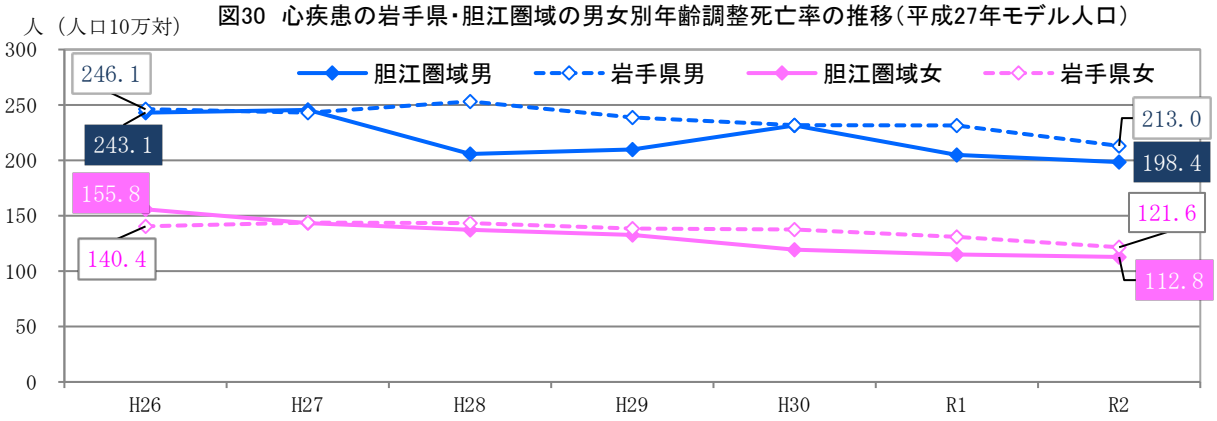


図30　心疾患の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移（平成27年モデル人口）

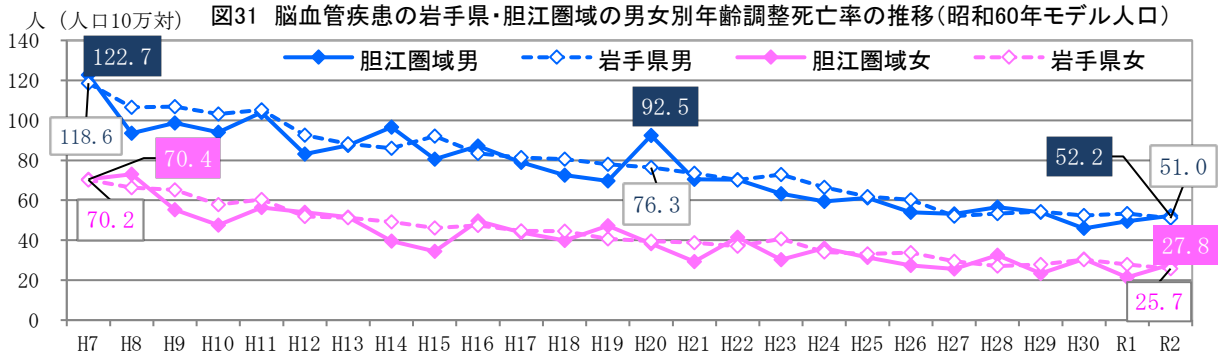


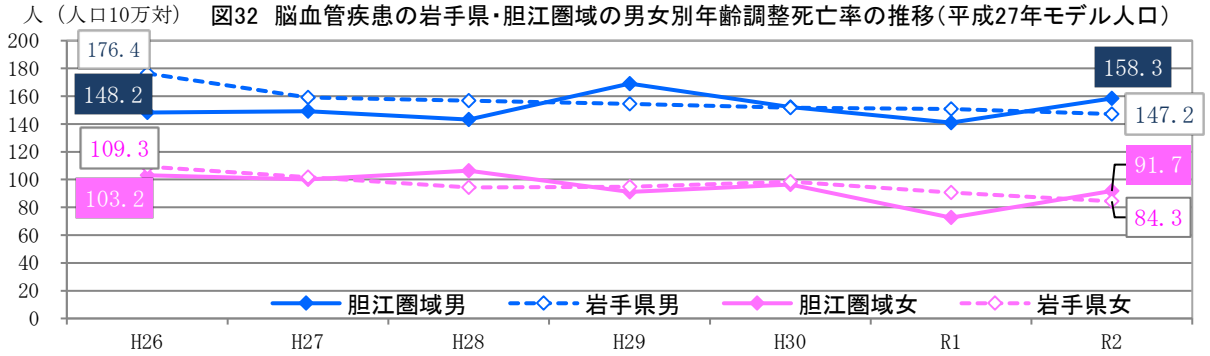
7　脳血管疾患の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図31）（図32）に示します。

（図31）を見ると、胆江圏域では、男性は平成7年の122.7から低下傾向となっていましたが、平成20年は急な上昇が見られました。令和2年は52.2と岩手県全体より高く推移しています。女性も、平成7年の70.4から低下傾向となっていましたが、令和2年は27.8と岩手県全体より高く推移しています。

（図32）を見ると、胆江圏域は年ごとの変動はあるものの、令和2年は男女ともに岩手県全体より高く推移しています。



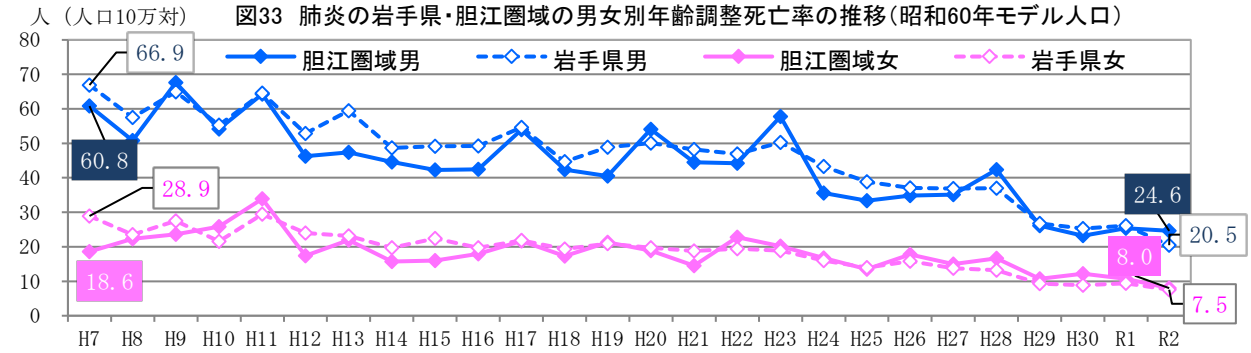


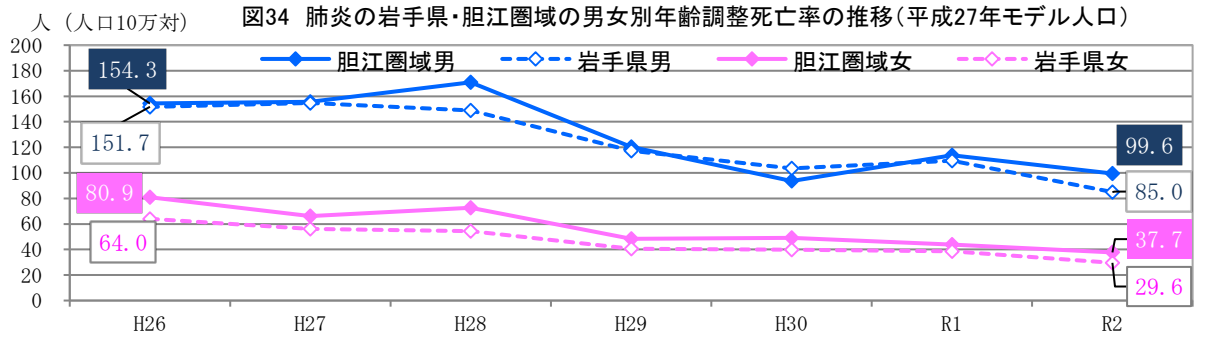
8　肺炎の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図33）（図34）に示します。

（図33）を見ると、胆江圏域では、男性は平成7年から12年まで上昇と低下を繰り返し、平成13年から16年までは岩手県全体と同様に低く横ばいで推移していました。平成17年から再び上昇と低下を繰り返し、平成24年以降は大きく低下していました。平成28年は増加に転じましたが、平成29年から令和元年に再び低下、令和2年は24.6と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年から11年にかけて上昇していましたが、平成12年に低下し、以降ほぼ横ばいで推移しています。また、岩手県全体と同じ傾向で推移しているものの、令和2年は8.0と岩手県全体より高く推移しています。

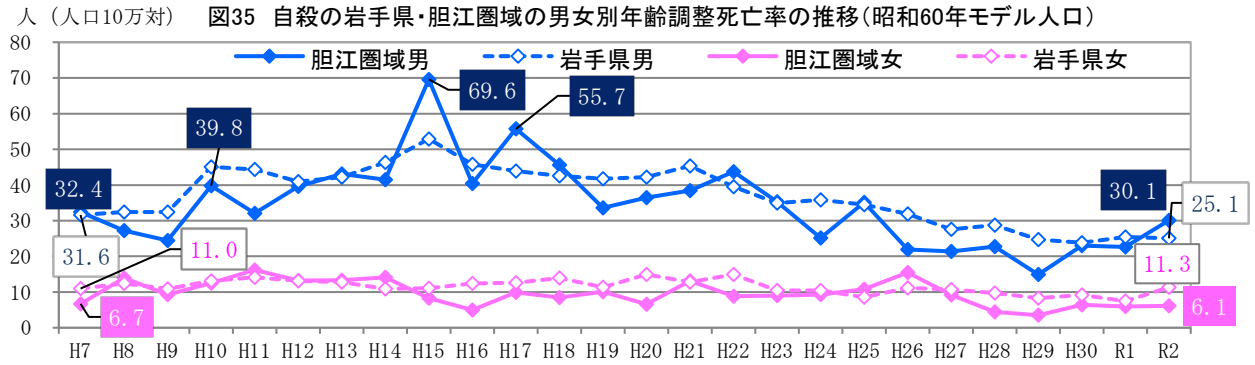
（図34）を見ると、胆江圏域は男女ともに概ね岩手県全体より高く推移しています。

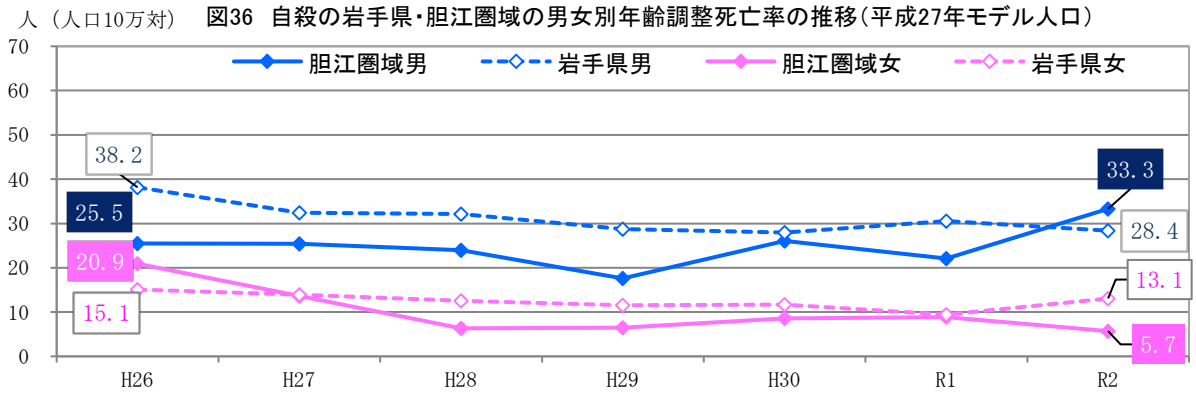


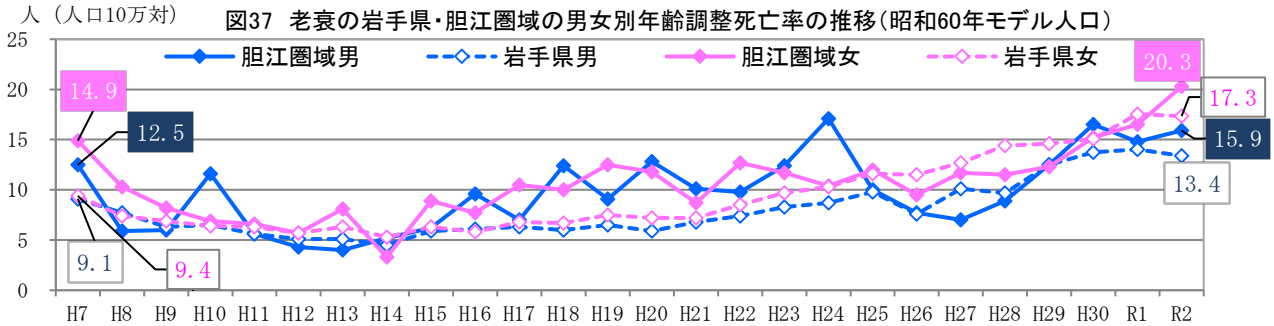
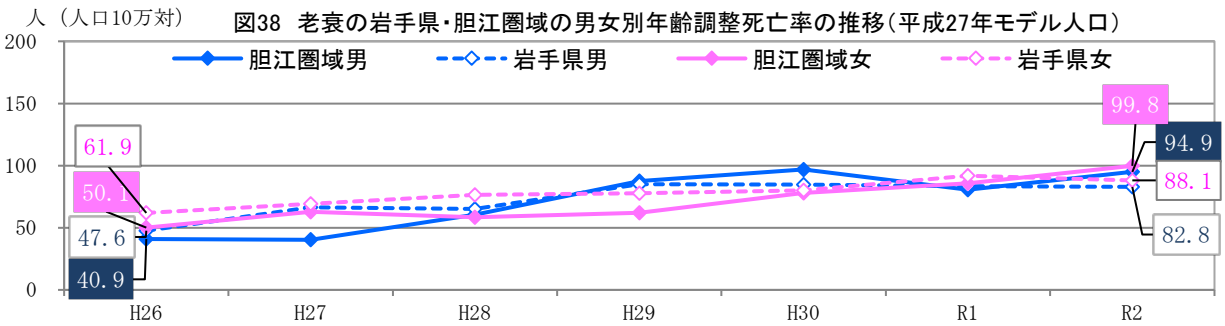


９　自殺の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を（図35）（図36）に示します。
（図35）を見ると、胆江圏域では、男性は平成10年から上昇傾向となり、平成15年、17年に山を形成しています。平成18年以降は上昇と低下を繰り返し、令和２年は30.1と岩手県全体より高く推移しています。女性は平成7年の6.7から岩手県全体と概ね同程度で推移しているものの、令和２年は6.1と低く推移しています。
（図36）を見ると、胆江圏域の男性は、岩手県全体より低く推移している年次が多いですが、令和２年は岩手県全体より高く推移しています。女性はほとんどの年次で低く推移しています。





10　老衰の岩手県・胆江圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県全体・胆江圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を（図37）（図38）に示します。
（図37）を見ると、男女とも平成7年から平成24年までは、上下しつつも岩手県全体より高い傾向を示していました。平成25年以降は県全体より低い値でしたが、平成30年は再び県全体より高い値となりました。令和２年は、男性が15.9と岩手県全体より高く、女性も岩手県全体より高く20.3でした。
（図38）を見ると、胆江圏域は年ごとの変動はあるものの、令和２年は男女ともに岩手県全体より高く推移しています。